



水稻生産情報



JA つがる 弘前
弘前中央地区営農係

今後、気温は高く推移する見込みです。立枯れ病・ムレ苗の発生や苗の徒長を防ぐため
温度・水管理をしっかり行い、丈夫な苗を育てましょう！

作業スケジュール（5月20日定植の場合）

● 浸種（3月30日～4月14日頃）



- 水の取り換えは3日目から3日おきに行いましょう。
水を交換する時は、籾袋の上下を入れ替え、温度のムラをなくしましょう。
- 水温は10℃以上を保つよう保温に努めましょう。
積算温度100℃以上が目安です。（10～15日浸漬）
※今年は種籾の休眠が深い可能性があるため、やや長め（20日程度）に浸漬を行いましょう。

● 催芽（4月14日頃）



- 催芽を行う際は30～32℃で16～20時間を目安に行いましょう。
※40℃を超えると発芽能力が低下します。
- 催芽完了の目安はハト胸程度に膨らんだ状態です。（右図参照）
※伸ばし過ぎると芽や根が折れやすくなるので注意しましょう。

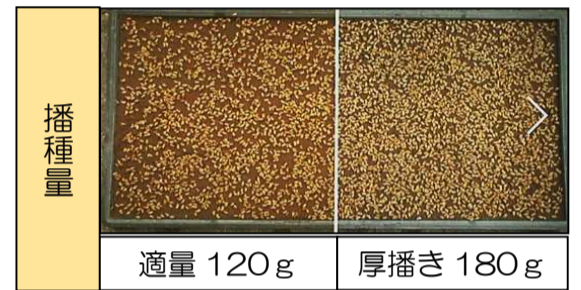


理想のハト胸状態

● 播種（4月15日頃）



- 播種量は催芽籾120g程度を目安にしましょう。
厚播きは徒長した軟弱苗ができやすく、田植え後の代枯発生や活着不良を助長させるので行わないでください。
- 覆土は5mm程度の厚さにしましょう。



● 床土づくり（播種前まで）

	サイコー11号（肥料）	ナエファイン粉剤	ナエファインフロアブル
山土	20g/箱 (5kgで250枚分)	8g/箱 (3kgで375枚分)	播種時灌注 2,000倍(1ℓ/箱) 緑化期 1,000倍(500cc/箱)
人工培土	肥料分が入っているため不要 ※無肥料培土の場合は山土と同様	6g/箱 (3kgで500枚分)	

【豆知識】：シルバーポリトウの特性

シルバーポリトウは、昼間は地温が上がりすぎるのを抑制し、夜間は保温してくれます。しかし、晴天時ハウス内があまりに高温だとシート自体からも放熱し地温抑制効果が低くなります。よって、ハウスが高温時は適度に喚起を行い高温障害を防ぎましょう！



育苗スケジュール 温度・水管理には十分注意しましょう。

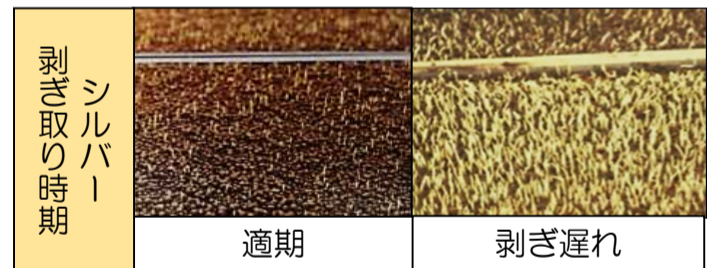
● 出芽期（4月15～20日） 日中35℃・夜間10℃

<ハウス育苗>

- シルバーポリトウ等の被覆資材は出芽揃いを確認後、取り除きましょう。
被覆資材の剥ぎ遅れは、徒長苗、病害の原因となります。

<折衷苗代>

- 置床は耳たぶ程度の硬さにしましょう。柔らかすぎると過湿となり出芽不良の原因となります。
※ハウス、苗代の内部が高温になる場合は、出芽前でも換気を行いましょう。
※シルバー剥ぎ取り後、ハウスの裾など出芽が遅れているところには夜間のみシルバー等をかけ保温しましょう。



● 出芽～1.5葉（4月21～28日） 日中30℃・夜間5℃

- 苗立枯れ病が発生した場合、ナエファインフロアブル1,000倍液を1箱あたり500cc灌注しましょう。
※過湿、過乾燥、極端な高温、低温環境だと苗立枯れ病が発生しやすいので、水・温度管理はこまめに行いましょう。

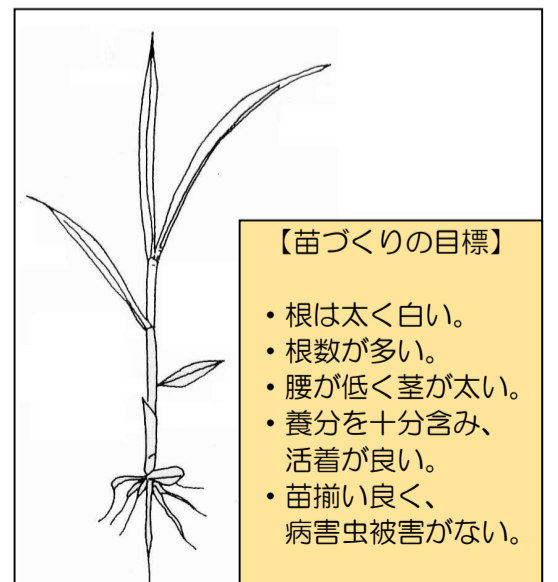
● 1.5～3.0葉（4月29日～5月12日） 日中25℃・夜間5℃

・ 灌水

- <ハウス育苗>：苗の葉が巻き始めた頃、朝方にたっぷり行きましょう。
- <折衷苗代>：基本は踏切溝の湛水で管理しましょう。床面が乾燥した場合は箱底面まで湛水し、すぐ水を切りましょう。

・ 追肥

- ：葉色が薄くなった場合、1箱あたり硫酸1gを水500ccに溶かし灌注しましょう。追肥は灌水前に行い、追肥後は葉焼けを防ぐため水洗いを行いましょう。



【苗づくりの目標】

- 根は太く白い。
- 根数が多い。
- 腰が低く茎が太い。
- 養分を十分含み、活着が良い。
- 苗揃い良く、病害虫被害がない。